

The background of the slide features a photograph of several high-voltage power line towers stretching across a landscape under a sunset sky. The sun is low on the horizon to the left, creating a warm orange glow. The image is partially covered by a dark blue horizontal band in the upper half, which serves as a backdrop for the main title.

非財務情報が企業価値を 高める時代に



非財務情報とは

1

価値観

2

ビジネスモデル

3

持続可能性・成長性

4

戦略

5

成果と重要な成果指標

6

ガバナンス

経済産業省の発表

これまでの投資は「財務に固執」していましたが、リーマンショック等の大きな経済変動による、国内企業の低迷などを背景に企業体制の改革を進めていく必要がありました。

以前は環境や社会を意識した投資は大きなリターンが見込めないと一般的に考えられていました。しかし各研究機関から「環境や社会を意識した投資はリターンが高い」という研究発表がなされることで、このようなテーマに取り組んでいる企業は「投資効果がある」という認識に変わってきました。

国としても、これまでの投資家の評価軸を変え、国内企業の立て直しを図っていくために、企業価値＝非財務情報という概念を打ち出しました。そしてESGが注目を浴びています。



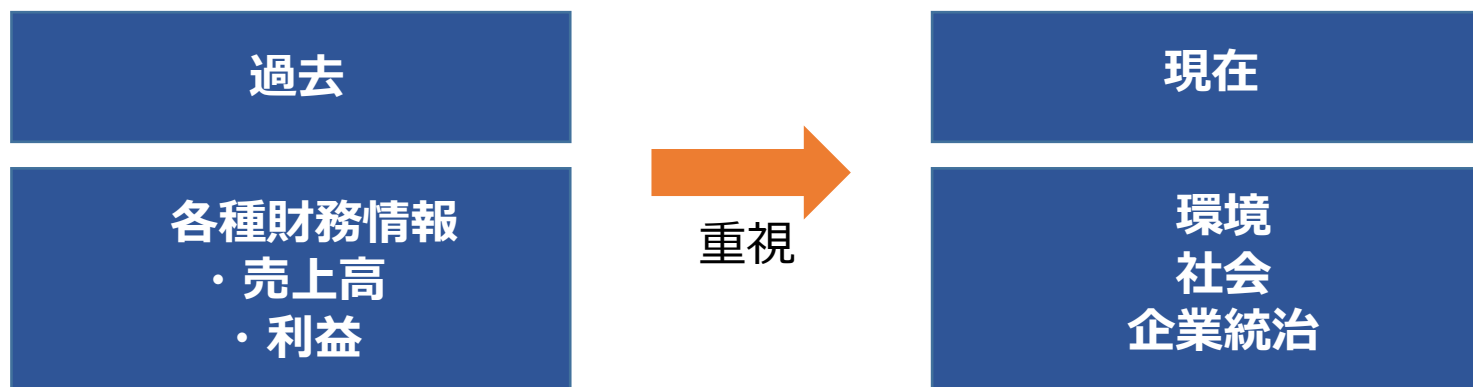
ESG投資とは

世界各地で環境破壊や人権に関する問題が生じる中で、このような社会問題・環境問題の解消に積極的な企業への投資を増やし、非積極的な企業には投資せず厳しい対応を迫ろうという意識が投資家の間で高まっています。

そのため数字だけにとらわれない「非財務情報」への注目が高まっています。その1つがESG投資で、環境・社会・企業統治の観点の重要性が唱えられています。

国連責任投資原則（PRI）がこの流れを象徴していると言えます。自主的な参加署名が1500機関以上もあり、ESG投資を推進する積極的な姿勢を見て取れます。日本の年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）も2015年9月に署名をしています。

企業の長期的な成長のためには、ESGが示す3つの観点が必要だという考え方が世界的に広まってきています。





Environment

環境

- ・ CO2削減
- ・ 環境破壊の回避

など



Social

環境

- ・ 働き方改善
- ・ 多様性推進

など



Government

環境

- ・ 公正・透明性のある経営
- ・ 情報開示

など

環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の頭文字を取ってESGと呼ばれています。

企業の長期的な成長には不可欠な要素であると考えられています。「責任投資（Responsible Investment）」「持続可能な投資（Sustainable Investment）」と呼ばれることもあります。



7分類

ESG投資は上記7つの種類に分類できると考えられている

①ネガティブ・スクリーニング

児童労働、武器の使用、ギャンブル性の高いものなど特定業界の株式や債券を投資対象から除外する

②国際規範スクリーニング

国際労働機関（ILO）、経済協力開発機構（OECD）、国際連合機関規範の最低限の基準に達していない企業を投資対象から除外する

③ポジティブ・スクリーニング/ベスト・イン・クラス

ESGに優れた銘柄のみを選抜して投資する

④サステナビリティ・テーマ投資

水ファンドなど、社会や環境に関して特定のテーマを設定し、関連する企業を対象に投資

⑤インパクト・コミュニティ投資

社会、環境への貢献度が高く、インパクトを重視した投資

⑥ESGインテグレーション

財務情報だけでなく、非財務であるESG情報も取り入れて考慮

⑦エンゲージメント/議決権行使

株主の立場から、投資先企業や投資検討企業のESG経営に関して積極的に働きかける